



組車山町日六廿

誌念周年百加參

組車山町日六廿

組車山町日六廿

## 目 次

発刊のご挨拶	廿六日町山車組委員長	佐々木伸夫	3
お祝いのご挨拶	八戸市長	中里 信男	4
祝辞	八戸商工会議所会頭	橋本 昭一	5
祝辞	・社団法人八戸観光協会会長	於本 功	6
祝辞	はちのへ山車振興会会長	菊田重一郎	7
三社大祭神明宮供奉百周年を祝して	・神明宮宮司	中居 靖夫	8
ご挨拶	廿六日町町内会会長	伊藤喜三郎	9
廿六日町山車組100年の歴史			10
山車づくり70年思い出のかずかず		・伊藤喜三郎	11
七ツ家大神楽 聞書		横田栄一郎	14
廿六日町山車写真（大正10年～平成4年）			16
山車参加百周年記念事業点灯式			33
平成8年廿六日町山車組写真集			34
山車参加百周年記念事業祝賀会写真集			36
編集後記			



平成  
8年

奨励賞

三社大祭参加百周年記念

# 神明宮供ぞろい



シンボルマーク



廿六日町三社大祭参加100周年

三社大祭山車参加百周年記念



贈 神明宮

神明宮記念旗



## 発刊のご挨拶

廿六日町山車組  
委員長

佐々木 伸 夫

明治29年に神明宮の付祭りとして三社大祭に参加以来、お陰様をもちまして今年で百周年を迎え、百年の歩みをするす記念誌を発刊する運びになりました。

発刊にあたり町内の皆様、関係者各位の物心両面にわたるあたたかいご支援とご協力を頂き発刊することができましたことを心から厚く感謝申し上げます。

百年の歴史を振り返りますと幾多の困難、危機もありましたが山車作りに携わった諸先輩、町内の方々のたゆみない努力と団結によって乗り切り最優秀賞はじめ各賞を受賞し百年の節目を迎えたことは廿六日町山車組にとりまして大きな誇りであります。

この輝かしい誇り高い伝統をしっかりと受け継ぎ次代を担う子供達に夢を与えることが我々関係者の努めであり、21世紀に向かい更なる発展を目ざして邁進していきたいと念願しております。

今後ともより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますと共に皆様方のご多幸をご祈念申し上げまして発刊のご挨拶と致します。





## お祝いのご挨拶

八戸市長

中里 信男

この度、廿六日町山車組の八戸三社大祭参加百周年を迎えるに当たり、心からお祝い申し上げます。

廿六日町山車組の皆様には、八戸三社大祭の充実・発展はもとより、当市観光行政の推進のために多大なるご尽力を賜り、厚くお礼申し上げます。

八戸三社大祭は、270余年の歴史と伝統を誇る当地方を代表する華やかな祭りであり、時代の変遷とともに祭りに参加する山車もその趣向を変えながら現在に受け継がれてきた貴重な文化遺産であります。

廿六日町山車組におかれましては、明治29年に神明宮のお供をして三社大祭に初参加して以来今日までの一世紀を会員相互の連携のもとに山車製作に研鑽を積み、これまでに最優秀賞を始め数多くの賞に輝いて参りました。

また、八戸三社大祭山車の先頭を練り歩く由緒ある山車組として、明治・大正・昭和・平成と時代を越えてきたことから、今日の百周年を迎えたものと感慨を深めております。

これも偏えに、歴代役員を始め会員各位並びに町内会の皆様方のたゆみないご努力の賜物であり深甚なる敬意を表する次第であります。

この度の百周年記念を契機といたしまして、今後、更に山車製作技術の向上に努められまして、八戸三社大祭の振興・発展のため、より一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、廿六日町山車組並びに町内会の益々のご隆盛と会員の皆様のご健勝を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



## 祝 辞

八戸商工会議所  
会 頭

橋本 昭一

廿六日町山車組がめでたく三社大祭参加百周年を迎えられましたことは、誠に喜ばしく、心からお祝い申し上げます。

明治29年の初参加と伺い、今日までの永きにわたり山車運営にご尽力されました歴代役員をはじめ関係各位に対し、敬意を表する次第でございます。

明治29年当時は、第1回オリンピック大会がアテネで開催された年でもあり、また当地では尻内～八戸間の鉄道が開通するなど、新しい時代を迎えようとしていた時期でありました。

その後、世界恐慌や第2次世界大戦といった幾多の混乱期を乗り越え、大正、昭和、平成の時代を通じて関係者の揺るぎない団結のもと、今日を迎えられましたことは、百年という歴史の重みを感じるものであります。

275年の歴史を誇り、古式ゆかしく格調高い三社大祭は、年々創意工夫が加えられ、豪華さが増し、観客に新たな感動を与えるとともに、明日の八戸を担う子供たちの夢を育てるという大きな使命を持っております。

参加以来毎年、神明宮にお供してお通りの先頭を飾る伝統を守り続けている廿六日町山車組は、三社大祭の発展のみならず、地域文化の向上に大きな役割を果たすものと信じて止みません。

また、「茅の輪まつり」をはじめ山車参加百周年を記念しての提灯飾りなど、廿六日町の賑わいを継続して広めていただくことは、八戸の顔としての都心地区の振興に取り組む商工会議所にとりましても、大変心強く感じているところであります。

今後とも、町内の皆様方におかれましては、この意義ある参加百周年を契機として、新たな決意のもとに一層精進を重ねられ、伝統に培われた地域に喜ばれる山車製作を進められるとともに、地域住民との絆を大切にしていっていただきたいと思います。





## 祝 辞

社団法人八戸観光協会  
会 長

## 於 本 功

この度、廿六日町山車組が八戸三社大祭参加百周年を迎えられたことは、誠に喜ばしく、心からお祝いを申し上げます。

八戸三社大祭は270余年の歴史と伝統を誇る、当地方を代表する祭事であり、その中において、廿六日町山車組は神明宮の御膝元の氏子として、毎年20数台の山車の先頭を切り、行列の露払いの役目を担っていただいている山車組であります。

今年は神明宮の神輿行列を題材とした「神明宮供ぞろえ」で参加され、百周年の意気ごみの伝わる華やかな山車が強く印象に残るところであります。

この度の百周年という誇るべき節目を契機として、今後更なる研鑽を積み、三社大祭の振興・発展のため一層のご支援ご協力を賜りますとともに、廿六日町山車組のますますのご隆盛、各位のご健勝を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



## 祝 辞

はちのへ山車振興会  
会 長

## 蒔 田 重一郎

この度、廿六日町山車組が三社大祭参加百周年を迎えられたことを心からお喜び申し上げます。

例年、廿六日町山車組は三社大祭行列の先駆けとして全山車のトップを切って運行されておりますが、神社お膝元の山車組であり委員長の佐々木伸夫氏には山車振興会の副会長を務めて頂き、大変まとまりのある行列となっております。

本年、百周年を記念した山車「神明宮供ぞろえ」が奨励賞に輝く等、山車組関係者におかれましても大変実り多い記念すべき年であったと思います。

この度の百周年という大いなる節目を契機とし、今後更に精進を積み、三社大祭の振興発展のため、より一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

結びに、廿六日町山車組のますますの隆盛と各位のご健勝を祈念して、お祝いの言葉といたします。





## 三社大祭神明宮供奉 百周年を祝して

神明宮宮司

中居 靖夫

廿六日町山車組が、神明宮の付祭としてお供してから、今年で百年を迎えました。一言に百年と云えば短く感じますが、その間には幾多の苦勞があった事と思います。それも「なんとしても神明さんにお供する」という、山車組の皆様の心意気があったからこそと、深甚の感謝の意を表するとともに、心よりお祝い申し上げます。振り返って見ると、祭典日の変更、渡御巡路の変更など、神社にとっても数多くの苦境がありましたが、その都度山車組関係者の力強いご支援により、乗り切ってきました。これからも、様々な問題が出るとは思いますが、次代を担う子供達の夢と希望のためにも、努力する所存です。関係各位の益々のご協力をお願い申し上げます。

既に101年目の準備に入っていると思いますが、山車組の益々のご発展と、皆様方のご尽力とご壮健をご祈念申し上げます。

重ねて、供奉百周年誠におめでとうございます。



ご挨拶

廿六日町町内会  
会長

伊藤 喜三郎

廿六日町山車組は、275年の歴史と伝統を持つ三社大祭に明治29年より神明宮の付祭としてお供をしてから本年で百周年を迎えることになりました。

百周年とは実に一世紀の長い年月でございます。その間、今日まで廿六日町山車組に寄せられました先人先達をはじめ、山車組関係者、並びに町内各位の馳まざる御協力御指導を頂きながら今日まで数々の功績を残し、今日の百周年を迎えることができました。ここに深く感謝申し上げ皆様と共に喜びあいたいと思います。

山車は昔、消防組（二番組）がすべて製作、運営にあたって昭和から戦時中までやってこられました。戦争が始まり消防団員の招集により一時人手不足になり、山車製作も思うようにならず、町内会員並びに町内縁故の方々の応援も得てなんとか切り抜けてまいりました。戦後は消防並びに町内の若者達が加わって山車運営にあたってきました。

その後今までお祭りの行列、その他について監督指導された消防組が関係しなくなり、各町内の山車組の形がかわってきたように思いました。当町内も当初は、町内会で運営するようになりましたが、その後、町内の若い人達に運営をまかせるようになりました。

私は、お祭りに関係してから約70年近くになります。その間の山車製作や、お祭りに関係したたくさんのエピソードがありますが、そのことにつきましては、記念誌の方で紹介したいと思います。ただこの原稿を書いている間にも思い出されることをちょっと御紹介しておきます。

明治29年から30年後の大正15年、山車の審査制度が始まりました。（当時の八戸新聞社主催）

審査方法は、人気投票でしたが廿六日町山車組は、大正15年、昭和2年、3年と連続3年間優勝しました。その後、昭和30年、第3位入賞し、昭和45年には最優秀賞に輝きました。そして、今年百周年には奨励賞を頂き、皆で<sup>いたわ</sup>喜びあいました。

この百周年を契機にして、さらに150年、200年と続いていくことを切に願い、また、今後も皆様方の暖かいご支援ご協力を賜りたく心よりお願い申し上げます。

今日は、どうもありがとうございました。



# 廿六日町山車組100年の歴史

## 明治・大正・昭和の初期の山車(判明しているもの)

明治29年	諫鼓鳥 (カンコ鳥)	昭和34年	忍夜恋曲者
43年	桃太郎鬼ヶ島引揚	35年	一寸法師
44年	五郎正宗	36年	乾龍坤龍 (努力賞)
大正2年	花咲翁桜の木登る居る処	37年	鎮西八郎為朝 (秀作)
3年	巴御前出陣の図	38年	日連上人 (秀作)
4年	和唐内	39年	九紋竜と花和尚
5年	鞍馬山	40年	連獅子 (秀作)
6年	素戔鳴尊大蛇退治	41年	かぐや姫 (第3位)
7年	加藤清正四方天但馬守組討	42年	鶴の恩返し (秀作)
8年	カンコの鳥	43年	三人藤娘
10年	碁盤忠信	44年	義経の八艘飛び (秀作)
12年	鬼退治	45年	桃太郎船の凱旋 (最優秀賞)
13年	源頼政のヌイ退治	46年	孫悟空
14年	勸進帳	47年	鎮西八郎為朝 (優秀賞)
15年	弁慶飛び六法 (優勝)	48年	壇ノ浦決戦の場 (秀作)
昭和2年	小栗判官 (優勝)	49年	中将姫ものがたり (秀作)
3年	牡丹に唐獅子 (優勝)	50年	宝船に乗った七福神 (努力賞)
4年	桃太郎	51年	南総里見八犬伝
5年	凱旋桃太郎	52年	桃太郎の鬼退治
6年	花車玉堂富貴の場	53年	亡霊知盛と源義経との戦い
7年	甕割公	54年	王朝貴族の舟遊び
8年	弁慶のつりがね引き	55年	龍虎の争覇川中島の決戦
9年	お祭佐七	56年	義経千本桜
10年	勢獅子	57年	源平壇ノ浦の決戦
11年	岩見重太郎の沸々退治	58年	象引
12年	素戔鳴尊八岐蛇退治	59年	南祖坊と八の太郎
		60年	連獅子
		61年	七福神
		62年	弘安の役 河野通有奪戦の場
		63年	七福神
		平成元年	三社大祭神明宮供ぞろえ (奨励賞)
		2年	京鹿子娘道成寺
		3年	七福神
		4年	新・鏡獅子 (奨励賞)
		5年	源平合戦・亡霊知盛
		6年	大江山 絵詞 魔人酒呑童子
		7年	寿狂言十八番 矢の根五郎
		8年	三社大祭参加百周年 神明宮供ぞろえ (奨励賞)

### 戦後の山車

昭和23年	め組の辰五郎
24年	佐倉宗五郎
25年	花咲翁 (第3位)
26年	金太郎鯉の滝登り
27年	羽衣
28年	勸進帳
29年	狐忠信
30年	元禄花見踊り
31年	象引 (努力賞)
32年	将門
33年	傾城反魂香

# 山車づくり70年 思い出のかずかず

伊藤喜三郎

廿六日町山車組は明治29年初参加以来今年で百年を迎えました。三社大祭に山車がなかった時代は、大通りの旦那衆がそれぞれの店頭の人形を飾ってお祝いしました。

その後、その人形をいくつかの消防組が頂戴し現在の山車のはじまりと聞いて居ります。私は大正14年からお祭りに参加して居り今年で約70年になります。其の間に見たり聞いたり、又新聞その他参考になる本等を見て知り得た廿六日町の山車の歴史を項目毎にして書いて見たいと思います。今後の参考にできれば幸いと存じます。

又、中には間違ったこと 或いはうそもあるかもしれませんが、もし気の付いた方はご指摘頂きたいと思ひます。出来る限り正しい事を後々に残したいと思ひますので。

## 1. 山車づくりについて

山車づくりは、大正末期から昭和前期にかけて八戸祭りの山車づくり三名人といわれた人に、廿六日町の村井文次郎氏が居ります。他の二人は塩町の類家又次郎、鳥屋部町の村井治兵衛(先代)の両氏であって、村井文次郎氏は八戸輪業の初代社長であります。この人を中心に日本画の大家、石橋玉徳氏(きくせんとん)が廿三日町に居り(石橋スポーツ社長 石橋博氏の祖父)町内が裏表の為、お願いして色々アドバイスを戴き実際に山車作りに携わって戴きました。この御兩人を中心に山車作りが進められ、町内の山車が今日あるのはこの二人の

功績が大きいものと思ひて居ります。

その間、色々の人々が山車作りに携わったようで私の記憶にある人は、庭島島松次郎氏、菅沼音吉氏、志村梅藏氏等であり、特に荒谷市蔵氏(元八戸消防長 荒谷勇一氏厳父)は戦後迄廿六日町山車作りに貢献して戴きました。其後、横田悦郎氏(現廿六日町山車製作責任者 秀昭氏厳父)が後継者になり現在もまた現役として後輩達を指導して居ります。又一時、村井四良氏の指導を受けた事もあります。

## 2. ゆかたについて

廿六日町のシンボルマークは、八戸消防第一分団第二班(旧二番組)は麻利支天尊を守護神として居り麻利支天を図案化したものです。即ち天を四つ丸く組み合せて丸四天を表し、更に二番組の二を二くずして組合せたものです。丸四天と二くずしの組合せたものをマークにして、更に廿六日町を組合せ、白地にマークは黒、町内名は青で染め抜いて居り非常に目立つゆかたで八戸一と自負して居ります。

## 3. 囃子について

囃子は笛太鼓とも正調と信じ、伝統を継承して居ります。大太鼓は祇園囃子の流れと聞いて居り 更にその中の二へん返しと聞いて居ります。(同じ調子を二回くり返す)最近



よその組には、はでなアクションをしたり大太鼓の位置を正面に置く等ときまぎまやって居る所もありますが感心したものではないと思います。

## 4. 花笠について

花笠は現在は花屋から購入して居りますが、戦前までは全町内毎に作ったものです。台は丸扇を買ってそれを丸く広げてイタダキを扇の裏に縫い付け更に花の葉は葉紙（緑色の和紙）を葉の形に切り取り胡粉で筋を書き、裏の真ん中に針金で1本芯を作り、それを3本組合せ扇に葉先を3分の1ほど出して張り、花は経木屋さんに（廿六日町は堤町にある番沢さん）にたのんで花びらの形の物を大中小と3種類作ってもらい、両端を赤く染めて大中小を2～3枚ずつ組合せ花の形を作り扇の上に付けて出来上りです。

又、特に凝った人は経木を細く切り裂き何本か組合せ、黄色く染めて芯を付けた人も居ります。

## 5. 塗料について

塗料は現在はネオカラースプレー等色々便利なものがありますが、当時はすべて泥絵具ですべてニカワ水で溶かしたものです。そのままと雨にあたると溶けて流れてしまうからです。泥絵具の名前は

赤色……シカレット  
青色……群青  
緑色……花緑青  
黄色……黄銅  
黒色……油煙

白色……胡粉  
等でありそれ等は当時廿三日町金子薬店で売って居りました。

又、当時の山車は岩が多く、岩の苔はオガクズを緑に染めて糊の中に入れて岩にぶっつけて作ったものです。又、ほかしの方法は霧吹きを使いましたが、太い穂先に色を含ませ口で吹いたり、或いは自転車の空気入れを使い吹きつけを行いました。

## 6. からくりについて

今のからくりは山車を大きくする為のからくりです。廿六日町では、まず動く事を重点にからくりを考えました。先ず第1回目はからくりといわないが、大正15年の弁慶飛び六法の山車では電飾を行った豆電球を花、人形の要所にとりつけ、点燈は手廻し発電器を廻し点燈し、現在のクリスマスツリーの電飾である様で当時観客をアッとさせたものです。

昭和4年の桃太郎ではからくりには関係ないが花笠に花の代わりに桃を付けました。昭和25年の花咲じいさんでは手のひらから紙吹雪を飛ばしこれは成功しました。人形の手首までゴムホースを取り付け手廻し送風機にて紙吹雪を送ったら、これは見事に成功しあたかもじいさんが灰をまいている様に見えました。昭和26年の金太郎の鯉のぼりでは滝を布で作し、上下は円筒をつけ、廻して動く様にしたが、初めは上手くいったが上下の心棒のセンターが上手く出来ていなかったため、布がからまって成功しませんでした。昭和36年の乾龍坤龍では龍の口から煙を出す事を考え発煙筒をたいてこれも成功しました。それか

らは、各組毎に人形のせり上げ屋台の上下左右の開閉等色々高度のからくりが現在の様に進んできました。

## 7. 審査制度

審査制度は、当時の八戸新聞社の主催により大正15年より行われました。第1回、第2回は人気投票であり又、第3回は中央より審査員を委嘱したと聞いて居ります。第1回、第2回、第3回とも廿六日町が優勝して居ります。第4回からは八戸新聞に投票用紙を折り込んだので新聞配達の後をつけて抜き取ったという話も聞いて居ります。其後新聞に折り込んだため新聞の買い占めによる大量の組織票もあったらしいです。そのことはともかくとして第4回以降は塩町が圧倒的に強かったです。尚、当時の審査の主催は八戸新聞社で後援は泉山醤油合名会社でありました。

## 8. 祭りの賑わい

三社大祭になると廿六日町周辺はまるで東京浅草六区の様な賑わいを呈しました。すなわち神明宮境内始め、町内の空地という空地にはサーカスや様々の見世物小屋がかかり、多い時には十以上にも及び一大歓楽街を作ったものです。今記憶にある主な見世物は有田洋行会、木下サーカス、宇佐見レビュー団、拳闘対柔道の戦い、オートバイの曲乗り、猿芝居、人形芝居等がありました。

この事から町内の少年野球チーム名を浅草とした事を覚えて居ります。又、町内で神明宮の芽の輪祭と三社大祭には道路の両側にボンボリを立て、軒花をさして賑やかに飾った

ものでした。

## 9. 大神楽について

神明宮のお供には廿六日町から山車の他に大神楽があります。お通りお還りはいつも神明宮が先頭であり、このトップをきって登場するのが大神楽であります。いわば先払いの役でまた行列全体のペースメーカーの役割も果たしています。この大神楽の獅子頭は、おがみ神社の金神楽と違って一回り大きい一般的に伊勢神楽と呼ばれているものです。参加は山車と同じく明治29年と聞いて居ります。当時は一頭であったが、昭和に入ると二頭になり他に類を見ない勇壮なものであります。昔は獅子の前に金棒引き（子供）がついたものです。獅子頭の製作者は、新組町の下斗米齊次郎さんと聞いて居ります。

## 10. 山車の貸し出しについて

お祭り運営費を賄う為、各山車組とも三社大祭が終わった後、近郷近在のお祭りに山車を貸し出して居ります。廿六日町の貸出先は記憶漏れもあるかもしれないが、大体以下の通りであります。野辺地町（昭和初期）、六戸町、五戸町、沼崎（現在の北上町）三沢市、七戸町、百石町、十和田市、三戸町、剣吉町、北福岡（現在の二戸市）、葛巻、久慈市、普代、岩手県日詰、石鳥谷、秋田県大館市にも及んで居ります。この後、いくつかは現在も続いて居ります。関係市町村の方々、本当にお世話になって居ります。



# 七ツ家大神楽 聞書 横田栄一郎

明治27・28年(1894・1895)の日清戦役に従軍した七ツ家町内の若者福岡竹蔵、佐々木初太郎らが広島県宇品港に復員上陸した。

無事帰還記念の土産に広島地方の郷土芸能として伝えられていた獅子頭をみつけて、買い求めてきたものがはじまりと云われている。

翌明治29年(1896)9月1日には町内の氏神神明宮も初めて参加してその名も三社大祭と改められた。

二十六日町消防組二番組では、早速附祭山車諫鼓鳥(かんこどり)を作り、神明宮のお供をした。更に、お土産の獅子頭をもって大神楽連を組織し、神明宮の先払として行列に参加し、疫病除け、防火の為の火伏せを願って札の辻をはじめに、それぞれ四ツ辻毎に四方を浄め、各町内の安穏を祈願したことに始まる。

当時は、神社中心の祭礼であったので、それはそれは丁寧に厳粛に行っていたものである。そして、大神楽の進行速度が祭り運行速度の基準となっていたものである。

現在は、三社大祭も協賛会が運営する様になり、過去における各種の厄除の祈願、又辻払もなく、優雅に舞う所作もなく、只々歩くばかりの姿となり芸アソビの一片もなくなってしまったことが至極残念である。

行列で、獅子の先には金棒引の子供が左右に二人いて、見物人を整理しながらジャンガラジャンガラと金棒を打ちながら進んだものである。この金棒をジャンギと云っていた。

金棒引の外に子供の役目は幕取りがあった。幕取りは、大神楽連の人々の子供が演じていた。やがて太夫となる道でもあった。

大神楽連は、二番組の現役を退いた中高年の方々により維持継承されてきた。

連の組織としては、先達一名、神楽謡3名ぐらい、太鼓1名、笛二節、手平鉦三丁、太夫2、幕取り2、その他総計15名ぐらいで構成されていた。

又、大神楽の屋台、衣裳については次の通りであった。

⑧依代(よりしろ)を乗せる台車については、大

(⑧ 依代について神を迎えて祭る時、神が宿る「木」又は、「石」)



大正15年

八車より一廻り小さい荷車が使用されてきた。当時は、町内の屋号「豆腐屋」と呼ばれた坂口鉄之助氏所有のものが主として使用されていた。

荷車の荷台に依代屋台(よりしろやたい)を乗せ、黒地の板に表面は大神楽、裏面は豊年萬作と白書で記し、車の表面に立てた。

オカメとヒョットコの面を2枚の扇に取付け、笹の葉五色の御幣を飾り、大太鼓、締太鼓を乗せ、腰幕を張り巡らし、獅子頭を安置する台座には注連縄が張られた。

大神楽連の先達は袴姿に一文字笠、白足袋、白緒の草履ばき、脇差を腰にし、扇子を構えて辻々毎に浄塩、齋米、幣を幣袋に入れて三方に盛り、四方払を又、獅子の四方拝を取り仕切っていた。

太夫の衣裳は、弁慶格子縞の浴衣に裁着袴、白足袋、草履ばき、豆絞りの鉢巻、大小二振りを佩刀、謡方、囃方、その他は弁慶格子の浴衣、白足袋、白緒の草履ばき、豆絞りの鉢巻、天気は左右される事なく一文字笠を被っていた。

昭和9年七ツ屋大神楽創設以来約40年を経て、町内の皆様に親しまれてきた獅子頭を新彫する事になった彫師は、売市新組町の下斉さんこと下斗米齊次郎さんをお願いする事になった。下斗米家は亡父横田福太郎の生家が隣りであったこともあ

って親しくもしており、亡父は仕事の暇々をみては下斉さん宅を訪ねていた。父親に連れられて彫りの工程を見た記憶ははっきりとある。従前のものより一廻り大きく顔面も品格ある立派なものであった。鮮やかな朱色と口は阿吽で作られていて、当時8才の私にとってはただ驚くばかりであった。

男獅子と一廻り小ぶりの女獅子は、さも生きているようであった。又、獅子頭につける大柄な唐草模様の粋な江戸風の斬新なものであった。

大神楽組にとって忘れられない人に次の人々がいる。戦前は勿論の事、戦後20年代まで櫛引の人達が2、3人神楽宿に寝泊りして手伝いにきていたものである。今日まで存続してきたのも櫛引の人達の応援があったことを忘れてはならない。これが縁で現在も又、櫛引の方々の応援を得ています。

又、町内には二十六日町が七ツ屋と云った時代からの旧家である屋号根万さん、牛嶋源五郎氏が住んで居た。その屋敷蔵に獅子頭と衣裳箱が安置保管されていた。

大神楽だけでなく町内の事一切お世話になって居た。現在十三日町牛嶋靴店の先祖である。又、諸道具類は神明宮の神楽殿に格納されていた。



昭和9年



大正  
10年

# 信忠盤碁



大正  
12年

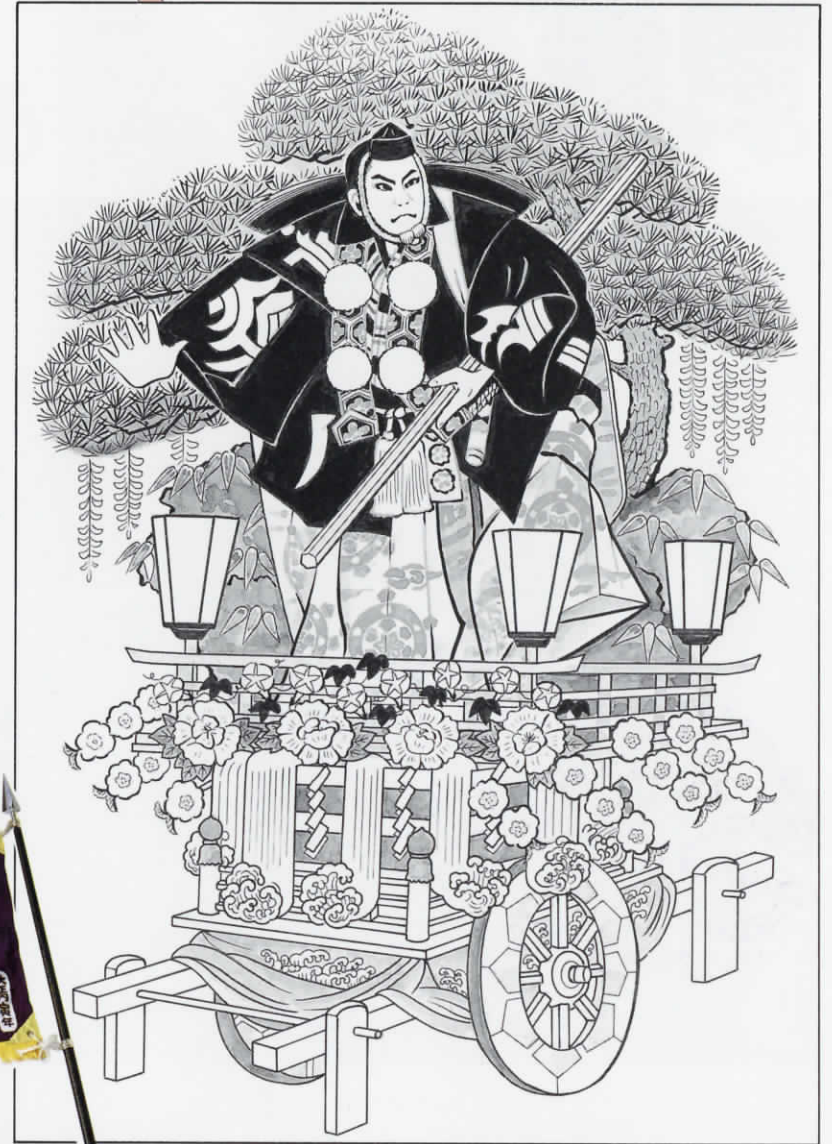
# 治退鬼



大正  
15年

第1回  
優勝

# 法六飛び慶弁



■ 副賞 銀杯 ■



協賛 岩常醤油醸造元

大正15年山車（優勝）  
観進帳（弁慶飛び六法）

大正15年第1回審査（人気投票）による第1位優勝山車であるが、残念ながら写真がなく、記憶をたどりながらイラストを書いてもらった。

只、云える事は、山車は三重高欄で一匹人形であり、高欄山車の代表的なものであった。



昭和  
2年

第2回  
優勝

小栗判官



副賞 銀杯



協賛 岩常醤油醸造元

昭和  
3年

第3回  
優勝

牡丹に唐獅子



副賞 銀杯



協賛 岩常醤油醸造元



昭和  
10年

# 勢獅系



昭和  
23年

# め組の辰五郎



昭和  
25年

第三位  
入賞

# 花咲爺





昭和  
30年

# 元禄花見踊り



昭和  
40年



# 連獅子



昭和  
37年



# 朝為郎八郎鎮





昭和  
45年

最優秀  
賞

# 桃太郎船の 凱旋の場



昭和  
49年

秀作賞

# 中将姫 ものがたり





昭和  
50年



# 宝船に乗った 七福神



- 副斎主
- 神職
- 四神旗 (四名)  
青龍・朱雀・白虎・玄武
- 袴着 (二名)  
紫翳
- 御神輿
- 管翳 (二名)
- 斎主
- 宮司 中居靖夫 (一名)
- 後駆袴着
- 附祭
- 廿六日町
- 新荒町
- 上組町
- 根城新組町
- 売市
- 吉田産業グループ

昭和  
54年

# 王朝貴族の舟遊び



- 三社大祭
- 「神明宮」行列次第
- 三社先駆 神明宮総代
- 大神楽 廿六日町
- 猿田彦
- (大祭協賛会)
- 前駆袴着
- 大麻司
- 神職
- 御神号旗 (二名)
- 真榎(松) (二名)
- 袴着
- 子供袴着
- 巫女 (二十名)
- 御神馬
- 向鶴旗 (六名)
- 神楽 笹の沢
- 日月旗 (二名)
- 袴着
- 初穂箱 (四名)
- 袴着



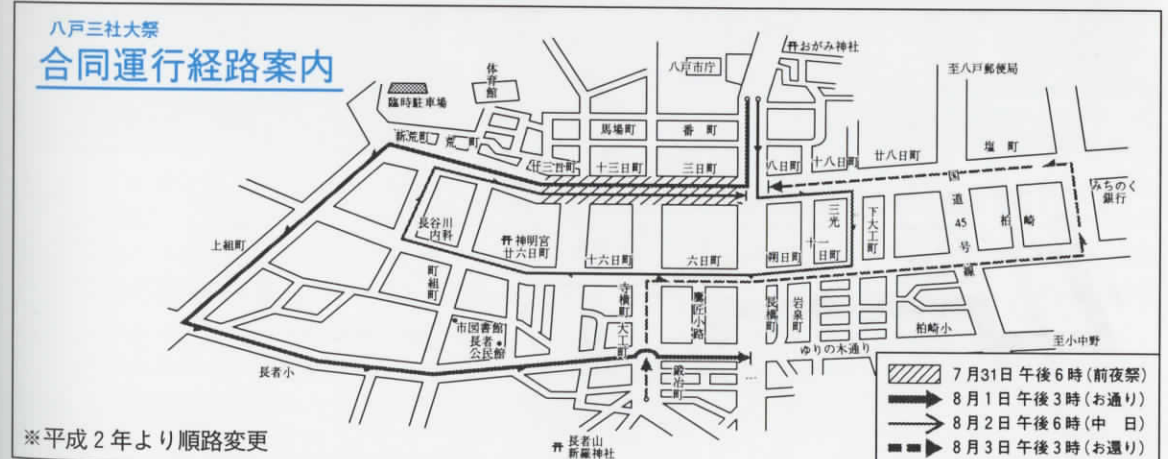
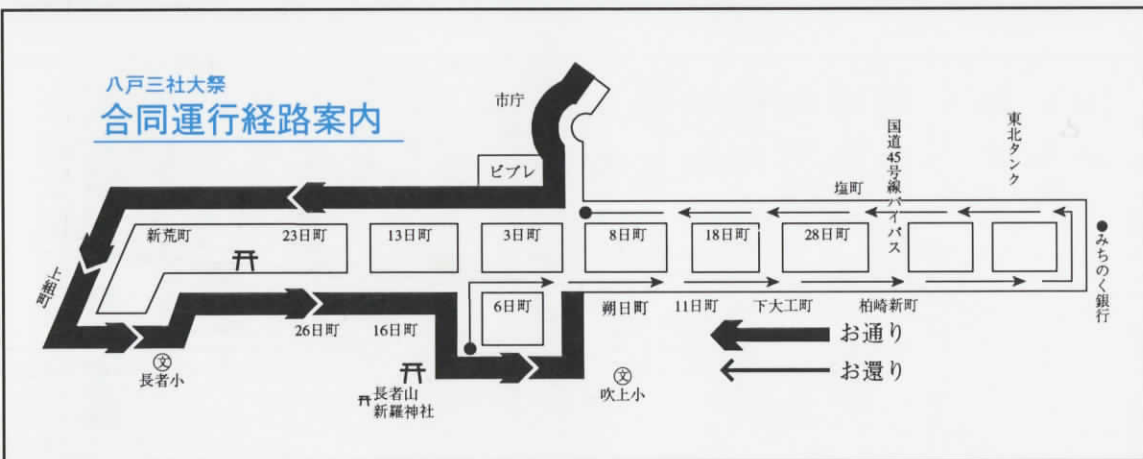
昭和  
57年

# 源平壇ノ浦の決戦



昭和  
62年

# 弘安の後 河野通有奪戦の場





昭和  
63年

# 七福神



平成  
2年

# 京鹿子娘道成寺



## 山車解説

娘道成寺は歌舞伎の舞踊曲、長唄の名曲で、安珍・清姫の伝説を素材として脚色した能の道成寺物から歌舞伎化された傾城道成寺、百千鳥娘道成寺もあるが、宝暦三年（1753）江戸中村座で初代中村富十郎が初演発表した京鹿子娘道成寺が道成寺舞踊ものの決定版となった。内容は清姫の亡霊白拍子花子が道成寺の鐘供養に現われ、舞い恋を語って鐘入り。鐘をあけると蛇体や鬼女となる。左馬五郎の押戻しで鐘の上。

山車の「あらすじ」は平家の落人尾形十郎の妹横笛が嫉妬して死に、その亡霊が白拍子となって鐘供養に来て鐘入り前に長唄、浄瑠璃、常磐津の曲で踊る。道行 乱拍子、急の舞、中啓の舞、手踊、鞠唄、花笠踊、クドキ、山づくし踊りで鐘入り。鐘をあけられて押戻される。山車は、白拍子、子坊主、押戻し、乱拍子、花笠踊を配して、美しく賑やかな道成寺ものを表現している。



平成  
4年



# 新鏡獅子



※平成六年八戸三社大祭ポスターに採用

八戸市・社 八戸観光協会 お問い合わせ: 0178-23-4771 用紙提供: 三井物産八戸工場

## 山車参加百周年記念事業 点灯式

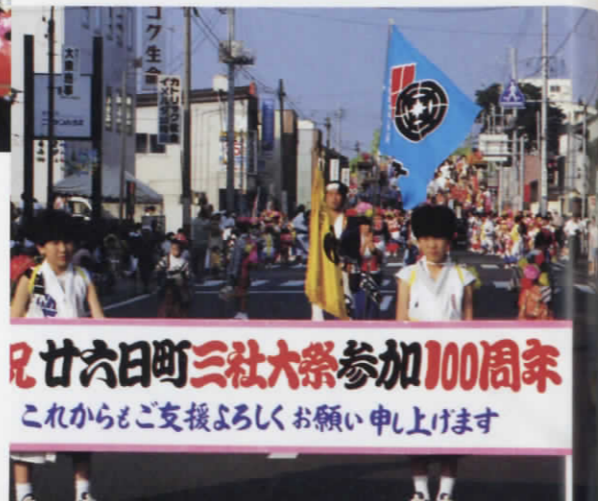


### 点灯式

平成8年6月29日

山車参加百周年記念事業の一環として廿六日町の道路沿いに160個の提灯が飾られた。









廿六日町山車組

# 三社大祭参加百周年記念

## 祝賀会



平成8年10月26日(土) 午後6時より  
於 八戸第2ワシントンホテル2F カメラホール



懐かしの写真展示



### 祝 三社大祭参加百周年



大神楽

### 祝 三社大祭参加百周年







記念式典修了後、引続いて祝賀会が開催され、ご来賓の方々からお祝いやら、励ましのお言葉をいただき、和やかな雰囲気の中に閉会いたしました。





廿六日町町内旗  
昭和10年作成

医療法人  
**康和会**

河原木内科医院 TEL(43)-6516

長者訪問看護  
ステーション TEL(46)-5855

訪問診療、訪問看護  
胃腸科、循環器科、呼吸器科、神経科

油絵具・デザイン材料・額縁・教材  
各種塗料・床みがきワックス

有限会社 **イトモ**

代表取締役 石橋 遵

八戸市十八日町15 ☎ 22-0269  
FAX 47-5033

純米酒  
さわやかなのどにし  
つめたくく冷やして夏の福川

八戸の地酒

福井酒造店

米のしずく

福川



八戸銘菓 潮娘

菓子司 紅屋

八戸市二十三日町神明宮向い ☎22-3035

LPガス・灯油・住宅機器  
冷暖房機器・ガス配管工事一式

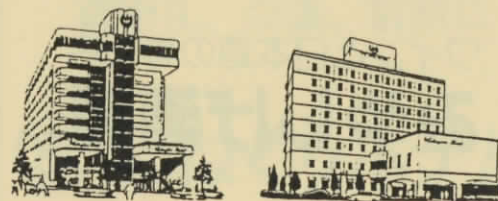
**出光 玉川燃料店**

八戸市廿六日町53の1 (神明宮通り)  
☎22-2249・FAX22-2249

創造力と総合力で未来を見つめる

**SSB**  
有限会社 **佐々廣木材店**

〒039-11 八戸市大字長苗代字前田49-7  
TEL (0178) 28-2353(代) FAX (0178) 28-2390



政府登録ホテル  
**八戸第1・第2ワシントンホテル**  
〈第1〉〒031 八戸市十三日町7番地 〈第2〉〒031 八戸市徒士町11番地  
〔総合受付〕 ☎0178(46)3111

(株)野月会館 八戸市本鍛冶町3

FREE SQUARE  
**NOZUKI**  
フリー・スクエア・ノゾキ  
八戸市小中野2丁目2-11  
☎0178-24-2291 Fax0178-24-2293

**野月会館**  
八戸市本鍛冶町3  
☎0178-24-1204 Fax0178-24-1201

SONY C.P. エステティックサロン  
**LOMEZO**  
八戸市小中野2丁目2-11  
☎0178-46-0220

**FELICIA** 八戸店  
八戸市小中野2丁目2-11  
☎0178-24-2291



医療法人

# 金田内科医院

内科 金田 昭治  
耳鼻科 金田 八重子

八戸市本鍛冶町1 (43) 7770

有限  
会社

# 石橋スポーツ

八戸市大字廿三日町40 TEL ④41484(代)  
(イシバシ)

## 住友海上

八戸第一支社  
支社長

高橋 隆二

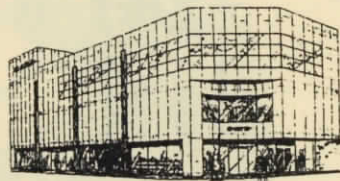
住友海上火災保険株式会社

〒031 八戸市柏崎一丁目11-15  
電話 (0178) 43-4118 (代表)  
FAX (0178) 46-2908

八戸・三沢

研修生  
募集

貴女はきもの、  
それとも洋服



きもの 婦人服 寝装品

### むらかね

八戸市二十三日町  
☎44-1668(代)

自動車用品・油機器・工具

# 光輪商会

〒031 八戸市廿六日町26  
電話 (24) 1321 (代表)

—タマヤのメガネはあなたの目です—



本社 八戸市大字十三日町26-2  
TEL 45-1166(代)

## 石万ビルディング

いし まん  
株式会社 石 万

青森県八戸市大字廿三日町10番地 〒031  
石万ビルディング  
TEL 0178 (71) 1800  
FAX 0178 (71) 1801

旅、こころ 旅する人の気持ちで……JTB。



For Your TravelLife

JTB八戸支店 | 八戸市大字廿三日町10、石万ビル1F  
☎0178-44-2111

造園一般、庭木、庭石  
芝販売、門松、装飾

# 八戸植木

代表 畑 中美也

〒031 八戸市本鍛冶町6番地

電話 (0178) 22-5331番  
FAX (0178) 24-2255番

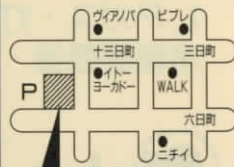
家電 + コンピューター

## 八青パーキング プラザ

☎(0178)46-3141(代)

営業時間 (毎日) AM 10:00 ▶ PM 8:00

ただし日曜日のみPM6:45にて閉店させていただきます。



エンコード  
八青パーキングプラザ

共通駐車券  
取扱店

家具&インテリア  
輸入グッズ



インテリア新発見!

マルイチ ☎(0178) 44-0101  
八戸市二十三日町18

和洋酒・たばこ

# 石木田酒店

八戸市番町25  
TEL (22) 0859・9116

## Enjoy Travel!

楽しみたいから まかせたい。



〒031 青森県八戸市二十三日町4-1 荒井ビル1F

TEL 0178-22-5151 FAX 0178-44-3543

ワインと日本酒の専門店  
みやしげ酒舗

〒031 青森県八戸市廿六日町  
TEL 0178-43-0061(代)

御婚礼、会議、宿泊に

# よねくらホテル

〒031 八戸市大字糠塚字蟹沢7番1  
TEL (0178) 43-3925



みんなのために、ひとりのために。

© Face to Face  
八戸信用金庫



希望の明日へ笑顔でチャレンジ



建設資材の総合会社

株式会社 吉田産業

〒031 青森県八戸市廿三日町2  
Tel 0178-47-8111(代表)



青森県屋外広告美術協同組合賛助会員

(有)富士工業リース

高所作業車  
穴掘建柱車  
総合リース

代表取締役 月舘 鉄男  
八戸市高州2丁目8-12  
☎28-3135 FAX28-1534

## 長谷川内科胃腸科医院

医師 長谷川 正 夫

青森県八戸市上徒士町2の1  
TEL 22-3215



HOTEL  
JAL CITY  
八戸

(0178)46-2580  
八戸市廿六日町8

豊かな明日のために!!

郵便預金・簡易保険・学資保険

## 八戸荒町郵便局

☎22-4216

20ヶ所のサービスステーション  
お手伝いしますカーライフ

石油製品 LPガス 暖房機器  
厨房機器・住設機器・オフィス家具  
オートリース 鶏卵 他  
**月金株式会社**

本 社 八戸市城下一丁目13番2号  
電 話 (0178) 44-5511(代)

各種旗・緞帳幕類  
トロフィ・カップ・楯・バッチ

有限会社 **むさし屋**

八戸市類家三丁目1の7 TEL(代)44-6348



県技能奨励賞知事表彰受賞

有限会社 竹子表具内装店

一級技能士  
代表取締役 竹ノ子 隆 昭  
〒031 八戸市柏崎六丁目23-11  
TEL FAX (0178) 22-0287

御食事処

## たま川

八戸市大字廿六日町48  
TEL 44-9555



贈ります、あなたの心にのこる旅—  
**東急観光**  
八戸支店 ☎ 0178-43-3720  
FAX 0178-45-8169

贈りものに 家族みんなの笑顔です。  
全国共通 **おこめ券**

## 水晶米・灯油

**南部食糧** 八戸市荒町22  
TEL44-1181(代)

地球環境を守る食の文化と器  
**食の文化資料館**

館内展示のご案内  
1Fフロア 環境対策と体験ゾーン  
2Fフロア 「紙」の歴史と「器」の文化ゾーン  
●開館時間/9:00AM~4:00PM  
●入 場 料/無料  
●体験コーナーのご利用について  
一般/毎週火 木13:00~16:00  
団体(5名以上)/予約制  
中居食品容器株式会社  
八戸市長苗代二分谷地1-35 八戸総合卸センター南-4 TEL29-0887代  
皆様のご来館を、心よりお待ちしております。

## 神 外 科

医師 神 文雄

八戸市大字糠塚字下道7  
電 話 (22) 0514番

あかしのくにからこんにちわ  
菓子卸センター  
**(株)坂下商店**

みちのく方言菓子販売元  
八戸市大字長苗代字前田47-2  
TEL (0178) 28-9775(代)  
FAX (0178) 28-9776

会員による会員のための会員の互助会  
通産大臣許可 互第2007号

冠婚 報恩互助会  
葬祭  
本部 八戸市二十三日町16 ☎八戸(0178)44-2427

婚礼披露・各種宴会・予約受付  
**はちのへ報恩会館**  
八戸市柏崎6丁目24-10 ☎0178(22)8788



全日本宗教用具協同組合加盟 純専門店の風格  
**真心のをい田神佛具店**  
十三日町本店 ☎22-0721 十六日町店 ☎22-8847 むつ商店 ☎34-5988 白根店 ☎33-4861 殿 店 ☎33-6331 十和田店 ☎23-0448 五戸店 ☎62-5228



**mazda**

各種新車中古車販売  
民間車検代行工場  
三井海上火災保険代理店

# 八戸マツダ 自動車有限会社

八戸市小中野一丁目4番35号 TEL (44)1428  
FAX (43)8581

芸能 発表会・ご婚礼・イベントPR  
音楽

## ビデオ撮影・出張記念撮影

フジカラー映像ショップ

### (有)グリーンアクト

☎0178(34)5531  
〒031 青森県八戸市新井田字水溜6の16  
(光星高校通り)

医療法人

## さとう内科胃腸科医院

医師 佐藤 貞治

八戸市大字糠塚字下道7番地73  
TEL 44-1838

## 千葉室内

**Chiba**

八戸店 二十三日町41 ☎22-7485(代)

ここが私どもの店です。

■八青パーキング・稲川駐車場をご利用下さい。  
毎週水曜日は定休日です。

## 祝 三社大祭参加百周年記念

有限会社 **富士文房具店**  
八戸市十三日町 TEL22-4146代

## 宮川歯科医院

院長 宮川 克孝  
八戸市二十六日町(神明宮となり)  
☎43-0535

## たね・農薬・肥料 園芸の店

**豊巻ビニール株式会社**  
八戸市町組町 ☎244541

一品一品に信頼の絆を託して

取扱品目

- 婦人服地
- 寝装・寝具
- 贈答用品
- 京呉服

ふれあい・発見・クリエイティブライフ

## 三元

八戸市十三日町15 TEL.24-2311代

## 商工会議所共済制度推進 日本団体生命保険(株)

八戸東営業所  
八戸市廿三日町28番 日本団体生命八戸ビル2F  
TEL 0178-47-0315・FAX 0178-47-0317

## 塚原整形外科

八戸市鳥屋部町1の13  
TEL46-2711

## 菊池産婦人科医院

菊池 岩雄  
八戸市大字糠塚字下道7の25  
☎22-0018

## 八青パーキング

八戸市二十六日町  
☎24-2341~2

ワクワク!ドキドキの懸賞金付定期積金

## トリプルドリーム!!

懸賞金

- ドリーム賞 …… 10万円×30本
- ラッキー賞 …… 2,000円×200本

十和田信用金庫八戸支店

すし会席 ふぐ すっぽん

## 大寿司

ご予約のうえ、ご来店のほど

●営業時間 昼席は予約のみ 午後10時半まで  
●定休日 火曜日

☎0120-17-0044  
〒031 八戸市廿六日町50-2  
☎22-7786

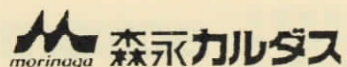
## 日本酒、ビール、たばこ、塩 (株)橋旗商店

八戸市大字鍛冶町34  
TEL 22-1028番

## お着付けとオリリーサロンの マツヤ美容室

八戸市二十六日町12 ☎(22)0395  
定休日 毎週月曜日  
第三日曜日は予約制





おなかのガードマン  
ビフィズス菌をお届けします。

## 南山商店

八戸市小中野二丁目6-19  
TEL 44-3218

安心・丁寧な電気工事

## 高村電気工事(有)

八戸市廿六日町24  
TEL 22-3549  
FAX 45-6965

造花・装飾品・花環・  
お祭り・正月用品 その他

## 秋田造花店

八戸市十六日町39  
TEL (22)2248

仕出しの御用命は

## なかうめ

八戸市徒士町1  
TEL 22-1361 代  
FAX 43-2411

家電製品の御用命は  
全メーカー取扱の

## 晴山無線

八戸市二十六日町神明宮前  
TEL 22-7421  
FAX 22-7422

医療法人

## 西村耳鼻咽喉科医院

西村哲郎

八戸市糠塚下道7(図書館通り)  
TEL 24-3381

祝

三社大祭参加百周年記念

## 味光

祝

三社大祭参加百周年記念

和洋酒・酒盛籠・贈答品

## 高坂酒店

印刷  
print  
印刷  
print  
印刷  
print

印刷が創る、社会の進める。

move  
SIGN  
INTERIOA  
GRAPHIC

〇ムーブ〇

〒031  
八戸市石堂2丁目21-4合川ビル  
DAIAL・FAX 0178-20-5877

地域の印刷を担い40余年。印刷のことなら、全ておまかせください。  
青森県八戸市廿六日町12  
TEL.0178-44-1447(代表)

中外印刷株式会社

八戸市廿六日町鎮座

## 神明宮

宮司 中居靖夫  
禰宜 中居一元

八戸市廿六日町26の1  
電話 0178-22-8883

祝 三社大祭参加百周年記念

## 廿六日町町内会

会長 伊藤喜三郎



---

## 編集後記

---

廿六日町山車組は、275年の歴史と伝統を持つ三社大祭に明治29年より神明宮の付祭としてお供し今年で百周年を迎える。

三社大祭への山車参加百周年を記念し、佐々木伸夫山車組委員長を中心とした記念事業実行委員会を組織、次のことを企画した。

①廿六日町町内に提灯の点灯、②山車参加百周年記念祝賀会の開催、そして③記念誌の発行である。

記念誌は先人先達者が築いてきた百年間の足跡をたどり山車組の歴史を伝えるとともに、21世紀に向かって新たな一步を踏み出す礎にしたいとの思いを込めて編集に着手した。

永きにわたり山車組に携わってきた伊藤喜三郎町内会長より写真、資料の提供など全面的な協力を得られたことは心強かった。そのほか皆様の温かいご協力により資料となる昔の写真、文献、広告などが着々と集められ、ひとつ、ひとつが活字になっていく喜びを得ることができた。そして編集を終えた今、改めてその年月の重さというものを実感すると同時に、たまらない快感が胸に残った。

参加百周年の大きな節目の記念誌を編集するお手伝いできたことに感謝したいと思う。

末筆になりましたが、数々の無理難題をも快く引き受けてくださいました中外印刷様はじめ、編集に携わってくださいました皆様に心から感謝申し上げます。更には広告主の皆様方に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

編集委員長 鳥谷部 隆章



# 廿六日町山車組 参加百周年記念誌

---

平成8年12月25日 発行

発行 廿六日町山車組  
参加百周年記念事業  
記念誌編集委員会  
印刷 中外印刷株式会社  
青森県八戸市廿六日町12



